

市民が集まり、憩い、楽しめる緑豊かな場所にいたしましょう



# 森の中の高知駅



## 高知を愛する皆様へ（令和2年6月号）

「お知らせ」令和2年6月1日

新型コロナ流行による緊急事態宣言がひとまず解除され、学園が再開されるなどで高知駅北口の駐輪・駐車場も目だって利用が増えてきました。私どもの活動も、恐る恐るではありますが復活したいと思います。ただ、帯屋町の街頭ライブ・チラシ配りはもう少し様子見です。

6月14日（日）

09:00～10:30 南口電停脇の「みんなの庭」の手入れを一緒にいたしましょう。高知市みどり課と前川種苗さんらのご協力を得て冬春花のあとに夏花を植えます。

<7月の共同活動日は19日（日）を予定しております。8月はお休みです>



北口駐輪場の植栽が育ちました。サツキも満開です。  
（樹々は平成27年に苗木60本ほど植樹したもの）

南口「みんなの庭」は紫陽花の出番です。

今月の話題（コラム）は「続 新型コロナウイルス雑感 ―大切にしたいもの―」です。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・続きは次ページをご覧ください・・・・・・・・・・・・・・・・・・

駅前緑化活動はご賛同の方々のご厚志で維持されております。引き続き皆様のお力添え（花苗持ち寄り、勤労奉仕、ご寄付など）をお願い申し上げます。

♥森の中の高知駅♥ 幹事連絡先：〒780-0042 高知市洞ヶ島町1-11

中田昌志 携帯電話：090-8849-3651 E-mail：[m.nakata@ak.wakwak.com](mailto:m.nakata@ak.wakwak.com)

公文敏雄 携帯電話：090-7016-3743 E-mail：[kumont2@yahoo.co.jp](mailto:kumont2@yahoo.co.jp)

ホームページ：<http://mori-kochi-eki.jimdo.com/>

取引銀行：四国銀行よさこい咲都支店「森の中の高知駅 代表中田昌志」名義 普通 0709695

## 続 新型コロナウイルス雑感 — 大切にしたいもの —

大きな災厄に見舞われ、当たり前だった日常が失われたとき、人はそれまで見ていなかった美しいもの・大切なものに気づくかもしれません。明治の思想家でキリスト者 内村鑑三は、かのジョン・F・ケネディ大統領も読み込んだとされる、英文の日本紹介書「代表的日本人」の中で、日本人が本来持つ特性を「自然との共生。これはわが民族の共有する福音である。」と一言で述べていますが、いかがでしょうか？ そう遠くない過去の出来事を振り返ってみましょう。

<その1> 悲慘な戦争が終わったばかりの昭和20年10月に「りんごの唄」、続いて12月には「里の秋」が生まれ、惨禍から立ち上がろうとする人々を歌で慰め励ました。

— 静かな静かな 里の秋 お背戸に木の実の 落ちる夜は

ああ 母さんとただ二人 栗の実 煮てます いろりばた —



里の秋（背景は「日本で最も美しい村連合:本山町」HPより）



星夜の人影（「あの日の星空」より）

<その2> 2011年3月11日、東北地方を襲った大震災の夜の体験を、仙台市に住む30代の女性はこう語っています。（NHK震災ドキュメンタリー「あの日の星空」=2019年3月11日放映）

「…全く状況が分からなくて、これからの事なんて考えられなくて…呆然と星空を見上げながら、不安か希望かどんな感情だったかも覚えていないし、むしろ『無』だったのかもしれないけど、本当に見た事がないくらいきれいな星空で、ただただ涙があふれてきたのを覚えています。」

さて、世界中を震撼させている今回の新型コロナショックは、時代の大転換を白日の下にさらしたといわれます。グローバル化とセットの経済成長至上主義の様々な弊害が目立つようになって、個人レベルでは、「ささやかな幸福、安全の大切さ、美しい自然や文化、教養など、お金だけで測れないものの価値が再認識されていく」（数学者・作家 藤原正彦氏）ことになりそうです。

私ども「森の中の高知駅」の仲間たちは、広い空・緑の森、清い流れに恵まれた古里で、生きていることに感謝しながら、細々でも、花と緑を育てるボランティア活動を続けてまいります。